

神奈川歯科大学附属病院 ニュースレター

2021年5月1日発行 3号

2021年度のスタート

病院長 井野 智

ベッドから起き上がりトイレに行こうとしても、フワフワしてまともに歩けない。本当に恐怖でした。病院長就任直後の2020年4月11日の明け方のことでした。頭をよぎったのは、脳梗塞？未曾有の緊急事態宣言下ではあっても、迷うことなく人生初の救急車を要請して病院へ。幸い、何らかの原因で内耳の耳石が飛び、平衡感覚に異変が生じる「良性発作性頭位めまい症」とのことです。5日程で症状は消失しました。

念のため、当院で脳のMRI検査を受けてみたところ、画像診断科の池上先生から「年の割に優秀ですね」と言われて、思わずホッとしました。体力（耐力？）には自信があっても、50を過ぎたら自分のカラダに向き合い、無理のない生活を心がけなければならないと痛感しました。今年度も宜しく願い申し上げます。



左から：大橋総医局長、池上副院長、井野病院長、星副院長、山口副院長、山本総看護師長、金井課長

◎ 病院運営委員会構成メンバーのご紹介

・副病院長（医科・安全担当）池上 匡

コロナ禍での感染対策・安全管理は、当院ではスタッフ一同の努力により大事には至っておりません。安心してご利用いただけます。医科では便秘外来を新規開設しました（下記）。CBCTなどの歯科画像診断も是非ご利用下さい。

・【新】副病院長（歯科部門担当）山口徹太郎

2019年4月に当院に赴任し、今年で3年目を迎えます。患者さんにとって最良で最適な治療を提供し続けるべく、そしてそのために お役に立てるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

・【新】副病院長（臨床教育担当）星 憲幸

本年度より、臨床教育担当副病院長を拝命いたしました。本病院は患者様のご理解ご協力の下、臨床参加型の教育病院として様々な学生の育成を行っております。今後とも、ご協力を宜しくお願い致します。

・【新】総医局長 大橋 桂

本年4月より総医局長を拝命しました大橋桂です。各診療科には各々の分野の専門医が在籍しており、専門医を含めたチームで地域の歯科医療に貢献させていただき所存です。患者様ファーストで取り組みます。

・総看護師長 山本 潤

2021年度は職員の新型コロナワクチン接種実施と引き続き3密防止、手指消毒、うがいの励行を徹底し地域への感染防止に努めたいと思います。また、医科の充実と拡大に伴い地域住民の皆様へ、より手厚い看護サービスの提供が出来るよう精進していくことを目標にしたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

・院務部課長 金井重興

2021年度を向かえ、コロナ禍のきびしい状況ではありますが、医科・歯科併設の医療機関として、患者さまの利便性の向上と近隣の医療関係者の方々との連携により、地域医療に貢献してまいりたいと考えております。



歯科診療科のご紹介

当科は病院 1 階に設置され、診療科のすぐ横の扉先には障害者用の駐車スペースがあり、高齢者や障害者の方の導線が確保されています。障害を有する患者さんや、全身のご病気が非常に重症で他の施設では安全に歯科診療が行えない高齢の患者さんに、高度な医学的管理を行いながら歯科医療を提供しています。精神遅滞などの障害者には環境や心のバリアフリーを心がけ、ノーマライゼーションを基本とし、障害特性に配慮して診療を行います。また、重症のご病気を有する高齢者には、血圧計や心電図などのモニタ監視を行い、認知症のために歯科診療に強い拒否を示される患者さんには、静脈内鎮静法や全身麻酔にて歯科診療を行っています。診療区画内に摂食嚥下関連の嚥下造影（VF）室、嚥下内視鏡（VE）検査室を備え、高齢者や障害者の嚥下障害の検査や摂食指導を行っています。

また、高齢者に対する訪問歯科診療を行っています。居宅のみならず入所施設や病院へも訪問し、口腔ケアのほか簡単な歯科治療や摂食嚥下診療（VE 含む）を行っています。一方、侵襲的な歯科治療を要する患者さんには、安全性を考慮して本院へ搬送し、病棟への入院も活用して、モニタ監視や必要に応じて鎮静法・全身麻酔を併用しながら歯科診療を行っています。地元の歯科医師会とも密接な連携をとり、通常の外来・訪問診療では治療困難な患者さんを多数紹介いただいています。

今後も、これらの方々に、安全で質の高い歯科医療を提供してゆきます。

全身管理高齢者歯科 障害者歯科

診療科長 森本佳成

046-822-8874



小児歯科は子どもにとって人生における最初の歯科医療との出会いの場となります。齲蝕の予防や治療や歯列・咬合の治療まで、0 歳から成人までの成長発育期における歯科治療全てを行っています。

齲蝕の治療と予防

齲蝕の治療だけではなく、保護者の希望により担当歯科衛生士が齲蝕活動性試験を行い、口腔清掃指導や間食指導、フッ化物による齲蝕予防を定期的に実施しています。また、歯科治療への協力が難しい小児患者さんには全身麻酔下での治療も行っています。

歯の外傷処置

歩き始めたばかりの幼児期や永久歯が萌出を開始する学童期前半は歯の外傷の多い時期です。歯の脱臼や破折、軟組織の損傷などありましたら小児歯科にご紹介ください。早めの対応が重要です。

咬合誘導処置

乳歯であっても多数歯の齲蝕や、指しゃぶりや爪噛み、口をポカンと開けている口呼吸などの口腔習癖を長期間続けると、永久歯列の咬合の異常を起こすことがあります。永久歯列の不正咬合を予防するため、乳歯列期から混合歯列期における歯列・咬合の診断と治療を行っています。

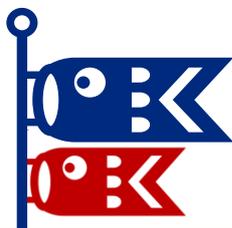
口の機能の発達支援

近年、小児の保護者からお子さんの食事の癖や発音などの相談を受けることも少なくありません。摂食嚥下の問題や発音が気になる、口呼吸などは保険診療の対象となる「口腔機能発達不全症」の可能性もあります。小児歯科では小児の口腔機能の発達支援のための機能訓練も行っています。

小児歯科

診療科長 木本茂成

046-822-8886



私たちは先進的な治療をいち早く取り入れ、患者さまに提供するよう日々、努めております。その一つがデジタル技術を取り入れた矯正歯科治療です。矯正歯科治療に対して患者さまが躊躇される理由の一つに治療期間があるかもしれません。デジタル技術により、装置を正確な位置に接着することが可能となり、診療時間が短縮できます。治療期間の短縮とともに、予測実現性の高い治療が可能になります。見た目をご心配される方もいらっしゃると思います。マウスピース矯正もデジタル技術を取り入れた矯正歯科治療の一つです。目立ちにくいので、見た目によるストレスを感じないでいただけるでしょう。加えて、食事や歯磨きの時は、取り外すことができるので、普段どおりに歯のお手入れができ、口腔内を衛生的で健康な状態に保つことができます。

顎変形症や口唇口蓋裂などの患者さんの治療においては口腔外科と連携し、それぞれの専門性を活かし高度で先進的な矯正歯科治療を行っております。矯正歯科治療は一般的には保険適用外ですが、①「厚生労働大臣が定める疾患」に起因した咬合異常に対する矯正歯科治療②前歯 3 歯以上の永久歯萌出不全に起因した咬合異常（埋伏歯開窓術を必要とするものに限る）に対する矯正歯科治療③顎変形症（顎離断等の手術を必要とするものに限る）の手術前・手術後の矯正歯科治療 に限り保険診療の対象となります。これら保険適用される矯正歯科治療を行える医療機関は、厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生（支）局長に届け出た保険医療機関のみで、当病院は育成・更生医療の適用病院です。

私たちは患者さま一人ひとりのライフスタイルに合った総合歯科病院ならではの先進的な矯正歯科治療を提供することを使命としています。



矯正歯科

診療科長 山口 徹太郎

046-822-8884

口腔外科は、顎口腔領域を広範に侵す先天性・後天性疾患の診断と治療を担う診療科で、顎顔面領域の奇形や発育異常（顎変形症）、腫瘍（口腔癌を含む）、外傷等の外科的疾患の他に、口腔粘膜疾患や唾液腺疾患、神経疾患等の内科的疾患も扱っています。患者の6割以上が紹介患者であり、皆様方の日頃からのご支援とご協力に心より感謝申し上げる次第です。

さて、近年の疾病構造の変化に伴い当科の診療では以前と異なる配慮が必要となっています。例えば、社会の高齢化と並行して口腔癌等の重篤な疾患が徐々に増加しており、早期発見に向けた地域連携の重要性が痛感されます。また、特別な対処が必要な基礎疾患（循環器疾患や糖尿病等）や長期服薬の障害（薬物性口腔乾燥症や薬物関連顎骨壊死等）に悩む患者が急増しており、これまで以上に医科との連携が重要となっています。さらに、食環境の変化（軟食化）に伴い顎口腔の発育障害（外科的処置が必要な重度の不正咬合や顎変形症）の割合が増えており、矯正歯科との連携も益々重要となっています。

こうした社会情勢の変化に鑑み、当科では新病院の開設に合わせて施設・設備の最新化と人材確保による診療体制の強化に努めて参りました。さらに今年から、全身麻酔による手術日を1.5倍に増やし、より迅速な対応を可能としています。今後は、皆様方とより一層の連携を図り、更なる地域貢献に尽力する所存ですので、今後とも宜しく願い申し上げます。



口腔外科

診療科長 小林 優

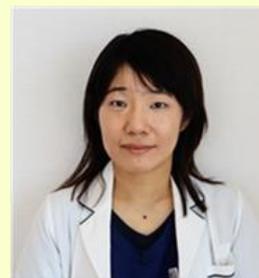
046-822-8895

* 次号は顎・口腔インプラント科、デジタル歯科診療科、マイクロスコープ診療科、義歯診療科です

2021年4月から便秘外来を開設しました

消化器内科 古出智子

専門医資格：日本消化器病学会専門医、
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医



日本では5人に1人が便秘で悩んでいます。若い世代では圧倒的に女性が多いですが、60歳以降は急速に男性が増えてきます。

80歳ぐらいになるとほぼ男女均等、ないしは男性のほうがむしろ多くなります。加齢で腸の動きが弱くなるのが原因です。

便秘で受診してよいのかとお悩みの方もいるかもしれませんが、便秘は病気であり、排便回数の減少（自発的な排便が週3回未満）や排便困難があると定義されます。便秘があると高齢な方では排便時の血圧上昇などの問題が起こります。

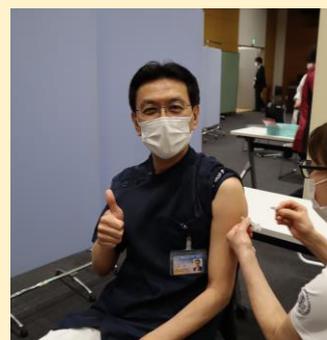
長年の便秘は、生活習慣が原因であることが多く、一度に解決するのは難しいものです。快便は健康のバロメーターですから、一緒に良い便通を目指していきたいと考えております。食事、水分摂取、薬の調整、大腸がんなどが隠れていないかなどの内視鏡検査などを行っていきます。

新型コロナワクチンの接種を行いました



2021年4月20日（火）本院に新型コロナウイルスワクチンが到着しました。予めからワクチン接種に向けたシミュレーションを行っていたことから、スムーズなワクチン接種を行うことが出来ました。

新たな脅威として変異ウィルスの猛威が報道されるなか、医療従事者からの先行接種となりましたが、いつになったら以前のような日常が取り戻せるのか、まだまだ、先の長い話になるのでしょうか。



井野病院長が当院のワクチン接種第1号



地域連携室から

神奈川歯科大学附属病院では地域連携室で他医療機関からのご紹介や患者様からのご相談、予約管理に対応させていただきます。

お気軽にご相談下さい。

〒 238-8570

横須賀市小川町 1-23

神奈川歯科大学附属病院 地域連携室

電話 046-822-8877

FAX 046-822-8888

<http://www.kdu.ac.jp/hospital/>

